

夢☆カフェ 合格体験記

高円寺氷川神社・気象神社 紺谷大進

1 自己紹介

- ・1979年(昭和54年) 石川県金沢市出身
- ・2004年 慶應義塾大学卒業
- ・2004年 双日(株)入社
- ・2009年9月 サンクトペテルブルク大学ロシア語専攻入学
- ・2010年6月 ロシア語国家試験2級合格
- ・2010年8月 サンクトペテルブルク大学ロシア語専攻卒業
- ・2011年～2018年 ロシア各都市駐在(モスクワ、イルクーツク、ハバロフスク)
- ・2018年6月 双日(株)退職
- ・2018年9月 東京都神社庁で神職資格取得(直階)
- ・2018年10月 高円寺氷川神社、気象神社奉職開始
- ・2020年4月 夢☆カフェ 中島俊夫さんと出逢う
- ・2020年6月1日 気象予報士勉強開始
- ・2021年10月1日 第56回気象予報士試験合格
- ・現在に至る

2 はじめに

- ・気象予報士試験はご存じの通り合格率が5%前後と極めて低いです。そんな環境の中で合格を目指す、合格到達まで達しているレベルの方は多くいると思いますが、そこで合格できるかできないかは本当に紙一重だと思います。
- ・従って今回「合格体験記」という機会を頂戴しましたが、「こうすれば、こういう勉強をすれば、こういう過ごし方をすれば合格できる」というのは正しくないと思います。
- ・逆に「(たまたまですが)合格できた人がこんな勉強をしていた、こういう過ごし方をしていた、こういう気持ちの持ち方だった」ということをお話しできればと思います。それくらい合格できるかどうかは紙一重だと思います。この合格体験記ではすべてを包み隠さずお話ししたいと思います。皆様にとってあくまでも一つの参考として戴ければと思います。

3 受験歴

- ・勉強開始は令和2年6月1日(気象記念日＝気象神社例大祭の気象祭の日)でした。
- ・記録を見ると正確には令和2年6月6日(土)に中島さんの教科書(よくわかる気象学(一般))を開いて勉強開始して、6月12日(金)に初めて夢☆カフェの教室に通いました。
- ・結果的には勉強開始から1年2か月と比較的短期間で合格できました。(たまたまです)

項目	一般	専門	実技	
第54回(令和2年8月)	○	○	×	
第55回(令和3年1月)	免除	免除	×	
第56回(令和3年8月)	免除	免除	○	合格

- ・結果的には当初計画していた通りに合格を勝ち取ることができました。(たまたまです)
- ・中島さんから第55回試験で合格するように発破をかけられ、毎日勉強しましたが、そこは甘い試験ではなく、落ちるべくして落ちたと思います。
- ・事実上初めての実技試験に不合格したことは本当に悔しく、特に不合格発表日からは「絶対に次で仕留める、次回不合格ならばもう諦める」と退路を断ったこと、覚悟を改めて抱いたことをよく覚えています。

4 合格までの道のりと勉強内容



5 気象予報士を目指したきっかけ

- ・令和2年4月中旬に「高円寺を『気象の聖地にする』という夢を実現する」夢☆カフェ代表の中島俊夫さんが気象神社にお越し戴きました。(高円寺に教室を開講したというご挨拶のために)
- ・令和2年4月に発出された緊急事態宣言のため、神社の社務受付も時短や休業を強いられ、これまで忙殺されていた仕事環境が緩和されました。(平日時短、週末休業など)
- ・そこで気象神社宮司の松井美加子さんより「気象神社の神職だから気象予報士の資格をとってみれば？(中島さんとのご縁も戴いたので)」との一言に一念発起しました。
- ・そこで上述のようにご縁があった中島俊夫さんに連絡をして面談の機会を戴き、貴重なアドバイスを戴きまして、即決で夢☆カフェにお世話になることを決断しました。
- ・それから合格発表日までは中島さんのアドバイスを素直に忠実に聞きながら、一日も休まず、日々全力で駆け抜けることができました。
- ・時には意見の衝突もありましたが、これもお互いが本気の熱量を持っていたからです。ただ最終的には「プロ」の方のアドバイスには絶対に忠実に素直に聞いて消化することが最も大切なことだと思います。なぜなら我々受験生と中島さんとは気象学に取り組んできた時間が圧倒的に違います。是非、素直に聞いてください。

6 使用した教材

- ・よくわかる気象学(一般) 第2版 中島俊夫著書
- ・よくわかる気象学(専門) 中島俊夫著書
- ・一般気象学 小倉義光著書
- ・気象予報士かんたん合格10の法則 中島俊夫著書
- ・夢☆カフェ模擬試験(約74題)
- ・本試験過去問(特に第30回～第55回を重点的に)
- ・夢☆カフェ配布の各種教材、資料
- ・夢☆カフェ配布のミニテスト、問題集

※取り組む教科書は絞ることが大事だと思います。当方の場合は上記の中でも、中島さんの教科書だけを使用しました。

自分の理解が進まないからといって、使用する教科書や教材を広げようとするのは絶対にダメです。どうしても広げたい場合は、自分で教科書を書けるレベルまで達してからだと思います。自分がたまたま出会った教科書は擦り切れるくらいまで付き合っていくべきだと思います。

7 勉強時間・過去問、夢☆カフェ模擬試験の消化状況

- ・2020年6月に勉強開始してから、2021年8月の第56回試験までの1年2か月で約1,900時間の勉強時間を積み重ねることができました。
- ・この1年2か月で本試験過去問は333題、夢☆カフェ模擬試験などは317題、合計650題を消化できました。
- ・やみくもに勉強時間を積み重ね、過去問、夢☆カフェ模擬試験を繰り返すことだけでは意味はないと思いますが、繰り返せば繰り返すほど、いろいろ見えてくることがあり、繰り返すこと、すなわち「量」をこなすことで「良質」な理解を得ることができると確信しています。

8 夢☆カフェ通学

- ・2020年6月に通学開始して以来、2021年8月の第56回本試験直前までの約1年2か月で88回通いました。(=176時間)
- ・夢☆カフェでは中島さんと話し込める唯一の貴重な機会となりました。当然授業料も支払っているので、1分1秒も無駄にしないように、取り組みました。
- ・一般知識、専門知識対策では事前に配布された宿題を解いてきて、授業で答え合わせ、読み合わせ、質疑応答を繰り返しました。
- ・実技対策では、前半1時間で与えられた模擬試験に取り組み、後半1時間で答え合わせ、質疑応答を繰り返しました。
- ・その他空いた時間でミニテスト、特性メニューに取り組みました。
- ・時には実技試験問題を作成したこともありました。(出題者の気持ちを知るため)
- ・あとは後述しますが、短期予報解説に取り組んだり、各種テーマのレポートを作成した上で、そのレポートの内容を検証することにも取り組みました。
- ・皆さんもご存じかもしれませんが、夢☆カフェのビンゴゲームはじわじわと実力として確実に定着してきます。

9 勉強方法

◆一般知識

- ・基本的には中島さん著書「よくわかる気象学(一般)第2版」をひたすら読み込みました。
※「ひたすら読み込む」とは少なくとも50回は読み込み、かつパソコンやノートにその内容を書き起こすことを意味します。
- ・あとは夢☆カフェで配布された「レジュメ」「穴埋め問題」「ミニテスト」などを紙が擦り切れるまで繰り返しました。(本当に擦り切れるのでコピーして無くさないようにしました。)
- ・一般知識は物理分野も多く、ただ暗記に走るのではなくて、常に立ち止まって「理解」に努めるのが大事だと思います。公式や計算式はその成り立っている「意味」を面倒くさがらずに、とことん悩んで、理解することが絶対に大事だと思います。これをクリアすると後々、実技問題で「楽」になります。「急がば回れ」だと思います。ここで楽すると、実技で大きな壁にぶつかることになると思います。
- ・個人的には実技対策をする上で一般知識の分野で大切だったと感じることは以下です。
 - 大気の鉛直構造(特に対流圏、成層圏の特徴)
 - 理想気体の状態方程式と静力学平衡
 - 空気の断熱変化と水の相変化(状態変化)
 - 3つの安定、不安定
 - 対流不安定、逆転層
 - 上昇流の4つの成因
 - 地衡風、傾度風、気圧傾度力
 - 温度風
 - 渦度
 - ジェット気流
 - 前線
 - 温帯低気圧
 - 台風

・・・すいません、多すぎました。大半以上が大事ですね。

ただ少なくとも上記トピックを完全理解しないと実技は合格できないと思います。

ここは本当に面倒くさがらずに、完全理解に向けて取り組むことを推奨します。

- ・あとは月並みですが、夢☆カフェと本試験の過去問をひたすら繰り返すことが大事だと思います。上記の教科書などではじっくり考える必要がありますが、過去問の取り組みは「量をこなす」ことが大事だと思います。とにかく「量をこなす」ことでとにかくいろいろなことが多角的に見えてきます。「正」「誤」が何故そうなるかを丁寧に分析する癖をつけられるようになればいい方向性だと思います。
- ・これらのことを面倒くさがらずにきちんと励行すれば合格点の11点はそこまで難しくないと思います。

◆専門知識

- ・印象としては一般知識よりハードルが高いと思われる方が多いと思いますが、そうではないと思います。何故ならば基本的に「暗記」のみでクリアできるからです。

- ・気象庁で定められている各種資料の基準などが頻繁に変更になるので、気象庁のホームページを常にチェックするのは大変な作業ですが、逆に言えば「暗記」さえ励行すれば合格の11点には限りなく近づけると思います。
- ・基本的には中島さん著書「よくわかる気象学(専門)」をひたすら読み込みました。
※「ひたすら読み込む」とは少なくとも50回は読み込み、かつパソコンやノートにその内容を書き起こすことを意味します。
- ・あとは夢☆カフェで配布された「レジュメ」「穴埋め問題」「ミニテスト」などを紙が擦り切れるまで繰り返しました。(本当に擦り切れるのでコピーして無くさないようにしました。)
- ・個人的には実技対策をする上で専門知識の分野で大切だったと感じることは以下です。
 - 風の観測、雲の観測
 - 風浪とうねり
 - 衛星画像(可視画像、赤外画像、水蒸気画像)
 - 温帯低気圧に伴う雲域
 - 気象レーダー観測
 - 解析雨量、降水短時間予報
 - 気象災害
 - 注意報、警報

◆暗記事項

- ・実技試験では穴埋め問題、その他比較的簡単な問題への対策には面倒くさがらず、考えている以上の範囲を完璧に瞬間反応できるくらいの暗記が「絶対」に必要です。
- ・当方は以下事項の暗記を強く推奨します。(瞬間完全暗記という意味です)
 - 現在天気記号
 - 過去天気記号
 - 気圧変化傾向
 - 各種海上警報
 - 大気現象の記号
 - 実況記事の読み方
 - 予報円、暴風警戒域、暴風域の定義と半径の求め方
 - 注意報、警報の種類
 - 台風の大きさと強さの定義
 - 1時間雨量、平均風速と、波高と予報用語との関係、1日に時間細分の表現
 - 各種注意報、警報が何が原因によって発表されるか
 - 各種災害の原因
 - 防災気象情報と警戒レベルとの対応

◆各種テーマのレポート作成

- ・実技試験対策で不調になった時に、中島さんから「各種テーマでレポートを作ってみましょうか?」とアドバイスを戴きました。それからの1~2か月は以下のテーマを中島さん著書の教科書、一般気象学(小倉義光 著書)、インターネット経由での調査を軸にとにかくありとあらゆることを調べて、研究して、自分の理解と比較して、自分の理解不足を少しずつ減らしていく作業を地道にしつこいくらいに繰り返しました。

- 温帯低気圧
- 台風
- 梅雨前線
- 寒冷渦
- 冬型
- 南岸低気圧
- 北東気流

- ・この作業に取り組むことで必然的に一般、専門の分野に立ち戻ることになり、これが基礎力の底上げにつながったと思います。この期間は最も有意義だったと思います。
- ・「気象予報士試験合格」を目指すのではなくて「気象学」の理解を深める貴重な期間だったと思います。

◆短期予報解説

- ・実技試験で大切なことは何ととっても「出題者の意図を瞬時に汲み取る」「問題のストーリーを読み取る」「問題文の指示を守り解答する」ことだと思います。
- ・その対策として、中島さんと共に「短期予報解説」に取り組みました。「短期予報解説」はご存じかと思いますが、1日2回発表されるもので、地上天気図、各高層天気図、各高層予想図、相当温位予想図など実技試験で実際に提供される資料を見ることができます。
- ・最初はそれらを用いて、中島さんから口頭で以下のような問題が出されました。(一例)
 - 500hPaのトラフ(ショートトラフもあればそれも)を描いてください。
 - 与えられた実況図、予想図から各種前線を描いてください。
 - 850hPaで12°C、15°Cの等温線を色鉛筆でなぞってください。
 - 地上天気図で低気圧、高気圧を色鉛筆でなぞってください。
 - 850hPaの等相当温位線で345Kを色鉛筆でなぞって湿舌を見つけてください。
 - 台風から温帯低気圧の兆候を示すことを説明してください。
 - 等圧線の間隔からどこで強風が吹くか示してください。
 - 上昇流、下降流、暖気、寒気の入り具合から温帯低気圧のステージを判断して下さい。
 - 各高層予想図から台風の構造について説明してください。(暖気核などから)
 - 梅雨時期の太平洋高気圧縁辺から流れ込む暖湿空気はどこにあるか示してください。
 - この天気図から今後の台風の進路と速度の変化を説明してください。
 - 大陸から入る寒気と南から入る暖湿空気により不安定になる場所を示してください。
 - 中高層に発生している寒冷低気圧はどこにあるか？またその理由を示してください。
- ・あとは自習時間では、これらの資料を基に自分で実技問題を作成することにも挑戦しました。問題を作ることは解くことよりも遥かに難解です。問題を作る訓練を繰り返せば、出題者の意図を汲み取る練習にもなると思います。また問題を読み込む意識を高くすることにつながると思います。

◆実技

- ・実技試験対策の王道は「夢☆カフェ模擬試験」「本試験の過去問」をとにかく繰り返し消化して自分の血と肉としていくことに尽きると思います。
- ・量をこなせばいいことではないと思いますが、1題でも多くこなした人が勝つと信じてます。当方の信念してはこのことは間違いのないと思っています。

- ・その理由としては過去問を繰り返せば繰り返すほど、その解答をだんだんと覚えてくることになります。すると余裕が出てきて、次は問題文の読み込み＝問題文の指示事項の精査、出題者の意図、全体のストーリー、どこがメインポイントか、などを読み取ろうとする「余裕」「幅の引き出し」が広がってきます。その理解度は繰り返せば繰り返すほど、早く深くなります。それが実力となっていきます。
- ・当方は夢☆カフェ模擬試験、本試験過去問を述べ650題こなしました。こなすということは「ただこなす＝問題を解いて、答え合わせをするだけ」ではなく、他人に解説することを根拠をもって自分の言葉で、できるレベルになるということです。

10 道具へのこだわり

- ・実技試験では、鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、定規、デバイダー、分度器、色ペン、色鉛筆、トレーシングペーパーなどの使用が認められています。
- ・これらの道具は唯一頼れる「仲間、同志、相棒」です。本当に大切にすべきです。
- ・当方は色鉛筆や色ペンを使うことはよくないと思っています。なぜならば、当日の本試験で色鉛筆、色ペンを使うと、おそらく2～3分のロスになると思うためです。
※もちろんここは個人の考え方がそれぞれありますので、それを尊重します。
- ・かつなぞるところを間違えると(間違える可能性は大きいと思います)大混乱になります。(なるはずです)
- ・従って、当方は鉛筆でなぞることすら、よくないことだと思い、基本的には「目視」で頭の中で線をなぞったり、チェックするように鍛錬しました。このことが逆に各種見取りについて精度を高めることになったと思っています。
- ・最後の方は各種資料に一切手を加えなく問題を解答していました。(時間確保に成功)
- ・デバイダーも使用しません。使用することに意味はないと思います。
- ・トレーシングペーパーは元々は使用していませんでしたが、第55回本試験の等高度線を10m単位で求める問題に出会ってから、以下問題に対しては使用しています。
 - 等高度線の時間変化
 - 擾乱や、渦度、上昇極値地の北緯、東経の時間変化
 - 各種擾乱と渦度、上昇流、下降流の対応位置関係の時間変化
 - 低気圧中心、台風中心などの速度分析
 - 低気圧中心、台風中心などの移動方向分析

11 戦略

- ・我々の目的は「気象学の研究」ではなく「気象予報士試験の合格」だと思っています。
- ・従って試験に合格するための戦略を講じてそれに対して準備を積み重ねることが最も大事だと思っています。
- ・そのために最も大切なことは「試験のこと熟知する」ということに尽きると思います。
- ・「試験のことを熟知する」とは当方は以下だと思っています。
 - 少なくとも第50回試験～第56回試験の傾向を完全理解する。余裕あれば、第30回試験からの試験傾向と照らし合わせれば有意義だと思います。何故ならば第55回、第56回試験に出題された相当温位と湿数の鉛直断面図は第30回～第39回で何度か出題されたことがあったからです。
 - 解答は解答例に限りなく近づけること、これが最も大事だといっても過言ではないと

思っています。自分の考えや第三者の意見は(試験合格には)ほぼ無意味だと思います。とにかく過去問の解答例を研究して、表現方法、文脈構成、単語の使い方、文末表現方法、などを解答例に近づけるような鍛錬が絶対に必要だと思います。

- ・出題者は自分の解答例を書いてくれる(限りなく近い解答例を書いてくれる)受験者の解答に点数を付与すると思います。受験生の自分よがりの解答は求められていないと思います。
- ・問題を思い切って「飛ばすこと」は本当に大事だと思います。試験本番で初見の問題とにらめっこして10秒間くらい経過して正答が浮かばない場合は思い切って諦めて次の問題に移ることを強くお勧めします。何故ならば皆さんは毎日猛勉強しています。そうしたバックグラウンドもありながら、10秒間見て正答が出ない問題は1時間かけても解けません。意外ですが次、その次の問題に進むとこの正答が浮かばなかった問題のヒントがある場合がこの実技試験にはあります。だから思い切って次へ！という意識を頭の片隅に持ってください。
- ・皆様は夢☆カフェ模擬試験、本試験過去問、その他試験に日々取り組んでいると思いますが、必ず60～65分で完答することを推奨します。これを繰り返すことで本番も60～65分でとりあえず(空欄もちろんあります)最後まで取り組むことができます。そのうえで、残り10～15分で大事な大事な穴埋め問題、その他選択問題などの振り返りや、誤字脱字のチェックができます。さらに最後まで完答できたことで精神的に一安心できて、初見で空欄で飛ばした問題が解けるようになるかもしれません。
- ・前線解析は1分以内にさくっと終わらせることをお勧めします。何故ならば、前線を正確に出題者の解答通りに描ける受験生はこの世にいないからです。従って、前線解析は思い切って、「まずはどの前線を描くか(温帯低気圧の発達ステージを確認して)を決めて、そのあとは(等相当温位線や等温線、上昇流、下降流、渦度などの情報はありますが)自分の本能赴くままに描くことでいいと思います。目標は1～2点で十分だと思います。5点を取ろうとすると時間切れで他問題の失点が多くなります。
- ・等風速線解析、等圧線解析なども上記の前線解析通り、時間をかけずに思い切って描いて次に進むことが本当に大切だと思います。(当方も56回試験の2題目の最初の問題の等圧線(補助等圧線)解析は難解と瞬時に判断して無視しました。
- ・逆に、穴埋め問題、簡潔な記述問題はじっくり取り組んで解答してください。やはり実技試験は1～2点の差で合否が分かりますので、記述問題は大胆に取り組んでいいですが、確実に解けるこの種の問題は時間かけてでも絶対に正答をつかんでください。

12 模擬試験

- ・本試験までには「夢☆カフェ」「クリア」の模擬試験を受験しました。
- ・夢☆カフェの模擬試験の結果は以下です。
 - 令和2年7月試験：一般-合格 専門-合格 実技-受験なし
 - 令和2年11月試験：一般-免除 専門-免除 実技1：75点 実技2：86点
 - 令和2年12月試験：一般-免除 専門-免除 実技1：81点 実技2：74点
 - 令和3年5月試験：一般-免除 専門-免除 実技1：76点 実技2：65点
 - 令和3年8月試験：一般-免除 専門-免除 実技1：76点 実技2：75点※夢☆カフェでは常時上位に入っていたことが(明確な順位はわかりませんが)自信になりました。
- ・クリアの模擬試験の結果は以下です。

- 令和2年12月試験：一般-免除 専門-免除 実技1：59点 実技2：59点
- 令和3年7月試験：一般-免除 専門-免除 実技1：74点 実技2：75点
- ※このクリア試験で2題合計で受験者数で1位になれたことは自信になりました。
- 延べ6回の模擬試験(夢☆カフェとクリア)で平均70点を取れたことは自信になりました。

13 試験当日の過ごし方

- ・ここでは一般、専門が免除の状態当日午後からの実技試験に臨むケースのことをお話しさせて戴きたく。
- ・まずは当たり前ですが、試験会場には12時前に入ります。会場により断定できませんが、吉祥寺の成蹊大学では「一般・専門免除」の受験生は空き教室に入ることができます。
- ・12時前に入室し、軽く昼食をとります。(これは個人差あるため個人の判断で)
- ・次に机、テーブルのサイズ、傾き、隣の受験生、周辺の受験生の確認、自分の座席が机、テーブルの左端、中央、右端なのかを確認します。
- ・特に机、テーブルの大きさや傾きはかなり大事です。当方は第54回、第56回試験は吉祥寺の成蹊大学でしたが、とにかく机、テーブルが小さく、傾きもあり、鉛筆や消しゴム、定規の置き場所、試験問題の配置(最後は乱れてくるので)には苦労しました。
- ・次に直近の本試験を2～4題を解答例を見ながら解答用紙に書き写します。(当方の場合は)第54回試験1-2、第55回試験1-2の4題を解答例を見ながらひたすら解答用紙に解答意をそのまま書き写しました。
- ・これにより、まずは書く手のウォーミングアップになります。これなしでは試験開始直後に緊張で手がうまく動かないこともあるかもしれません。しかしこの対策をすることで、解答例を書くので100点を取ることができ、気分も盛り上がり、かつ書く手の暖まり、本試験では比較的緊張せず、スムーズに入っていけると思います。
- ・また1題目が終わったら、一般的には「問題を振り返らない、書いた答えは書き直せない、それよりか2題目に向けてやることをやる」と言われていると思います。
- ・当方の考えは逆です。当方は30分の休憩時間の間で1題目を徹底的に自己採点します。そうすることで、自分のミスやうまくいったことがある程度把握でき、2第目の対策になると思います。(1題目でミスをしたこの類の問題は次は絶対にミスしないぞ！など)
- ・あと最も大事だと思うことは、1題目を冷静に自己採点することで凡そ自分の点数がわかると思います。(±5点くらい)
- ・その自己採点を把握することで、2題目の方針が決めることができます。もし1題目で手ごたえがあれば、2題目は攻めずに、記述は飛ばして、穴埋め、簡単な記述問題を時間かけてでも確実に回答して得点を積み重ねる(60点くらい)作戦を立てられます。
- ・一方、1題目の手ごたえがなければ、2題目は捨て身で攻めるという作戦を立てられます。とにかく攻めて大逆転を狙うという作戦です。
- ・当方の場合は第56回試験では(たまたまですが)1題目の手ごたえがあったので、2題目は60点くらいを目指すように作戦を立てました。穴埋め問題、絶対に落とせない問題を確実に正答するように時間配分を考えました。難しそうな記述問題や、前線解析、等圧線解析は全部落としてもいいくらい大胆に取り組みました。
- ・当方の場合は、(たまたまですが)1題目がうまくいき、2題目も慎重に取り組むことができました。特に混乱もなく淡々と解答できたと思います。ただ後述するように、

解けなかった問題もあったことは事実です。

- ・2題目が終わった瞬間、ちょっとだけ声を出してガッツポーズをすることができました。ちょっと恥ずかしいですが、幸運なことに今自分が出せる全てを出し切れたと確信できました。

14 試験日から合格発表日までの過ごし方

- ・試験日から合格発表までは約1か月ちょっとあります。これは微妙に長いですね。。
- ・試験直後は皆さんはこれまで全力で走ってきただけにぽっかりと穴があいたような気分になり、開放感、脱力感も出てきますので、勉強する意欲もなくなってくると思います。皆様も生身も人間ですので、当然です。
- ・しかしここはひと踏ん張り。まずは試験当日の夜に(記憶の歩留まりが最も高いうちに)自分が書いた回答を可能な限り正確に復元する作業をしてください。
- ・これが絶対に大事です。夜更かししてもいいので、とにかく思い出して可能な限り正確な自分の解答を書き起こしてください。その際は第55回試験までの業務センターからの解答例の書式を真似ることをお勧めします。(Wordで作成できます)
- ・翌日からは必ず毎日2題とも改めて自己採点を繰り返します。これを合格発表前日まで繰り返します。そうすれば約40日=40回くらい自己採点をすることができます。ここまで徹底的に試験に対して取り組んだ受験生をお天道様は見ていると思います。採点する方も味方につけることができるかもしれません。とにかくやれることは面倒くみながら、やり抜くことです。
- ・試験から10日後くらいに気象業務センターから公式の解答例が発表されます。
- ・ここからは配転も意識した自己採点をしてください。この配点のからくりはなかなか理解するのに時間がかかりました。これは中島さんと一緒に自己採点する際に教えて戴きました。配点の妙は本当に奥深いです。指定された文字数でも配点が微妙に変わってきますし、穴埋め問題でも計算問題の類は2点であったりします。
- ・さらに自分の解答と解答例を比べて「ワーストケース」「平均ケース」「ベストケース」を細かく自己採点で分析します。当然ですが「ワーストケース」で65点くらいになっていればほぼ合格ラインに達しているとみてもいいと思います。
- ・当方の場合は、中島さんと厳しめの自己採点をしたところ、平均70~72点でした。自分の自己採点では平均78点くらいはあったので、ちょっとショックでしたが、70点を超えると合格なので、あとは合格日まで必ず自己採点を毎日繰り返しながら待つこととしました。(中島さんからは「ひとまず目標はクリアできましたね」というお言葉を戴き、一安心しました。)
- ・同時に正答できなかった問題もあった悔しさから、一般、専門の復習も開始しました。
- ・最後まで諦めずに(試験日までではなく、合格発表日まで)取り組んだことを見てくれている人はいてくれたということに尽きると思います。

15 合格発表日のこと

- ・皆様と同じだと思いますが、やはり合格発表日までは落ち着きません。いろんな複雑な思いが交錯すると思います。これは向き合わなければならない感情だと思います。
- ・「絶対合格できている」「いや思い起こせない単純ミスがあつたらどうしよう」「不合格の場合、また半年後に向けて頑張れるだろうか」などいろんな思いが出てきました。当方の場合は前述したように「第56回試験で退路を断っていた」ため、

本当に不安の方が大きかったです。

- ・合格日当日令和3年10月1日はご記憶にあるかと思いますが、台風16号が関東地方を直撃した日となりました。
- ・上述したようにこの合格発表日までは不安が大きく、普段感じるよりも日々の時間経過が遅く感じたように思います。
- ・当方はハガキをみて合格発表を確認したいタイプでしたが、先延ばすことはよくないと思い、思い切って業務センターのサイトにアクセスし、まずは実技試験の合格ラインを確認したところ、「65点」という数字が見えてきた瞬間に合格を確信したので、すぐに合格者の受験番号を見に行きました。
- ・すると確信通り、自分の受験番号がありました。(自分の受験番号は暗記していました)
- ・ここでの気持ちは、正直なところ「ホッとした」というところでしょうか？喜びもなく一安心しました。喜びがないということは、それだけこれまで必死に全力で取り組んできたことかと思います。(自分が合格できなかつたら誰も合格できない、ということを感じていた心境でしょうか。)

16 合格できた理由

- ・結果的には比較的短期間で合格できましたが、本当にたまたまです。それほどこの気象予報士試験は簡単ではなく、特に文系出身の当方は特に物理分野は苦勞しました。
- ・また気象法規や専門知識では膨大な暗記が求められますので、気が抜けませんでした。
- ・また最も難しい実技試験は本当に、、本当に、、難しかったです。試験時間が75分と短く、この時間内で完答することはかなり難関です。ちょっとでも考えてると完答できません。とにかく理解を深めて、経験を積んで、問題読み取りでは出題者の意図を汲み取り、瞬間的に手を動かして記述していかないと到底合格することはできません。
- ・合格できた理由は特になく、本当にたまたまです。ただ日々心掛けたことは常に神社を清掃する、ゴミを積極的に見つけて拾う、トイレや水回りの掃除を進んで励行することでした。これにより「流れ」がよくなり、「運」を拾うことができたと思います。あとは謙虚に感謝の気持ちを常に持つことが本当に大事なことだと思います、

17 今後について

- ・自然体でいきます。気象予報士は全国に1万人、神職は2万人程度います。しかし気象神社の神職が気象予報士になる事は日本唯一です。このことで何か面白いことが起きればいいと思います。
- ・気象神社での天気予報発表、次の気象予報士の卵の皆さんに気象学を教える、などがありますが、まずは中島俊夫さんの「高円寺を『気象の聖地にする』という夢のお手伝いをできればと思います。気象神社の神様の「八意想兼命」様、関係者の皆様感謝しつつ、謙虚に背伸びせず、地道に頑張っていきます。
- ・実は近いうちに改めて気象予報士試験を受験予定です。その理由としては、合格させて戴きながらも、第56回試験では「解くべき問題」をポカミスで正答できず、あとはまったく見当違いで正答できなかった問題が6～7問ありました。これが本当に悔しくて、これらの問題を次回は絶対に正答したいという気持ちが沸き立ってきました。
- ・従って第56回試験直後から一般、専門の基礎から勉強を再開しています。
- ・第57回試験で一発合格を目指す気持ちで毎日取り組んでいましたが、9月末の緊急事態宣言解除後に、神社への参拝者も戻ってきて、神社への各種仕事も舞い込んできてお

- り、また他仕事の掛け持ちあり、最近は(10月中旬ごろから)勉強時間を確保することが難しくなりました。
- ・従って第56回試験の受験は諦めました。次回第57回試験(令和4年8月)を受験したいところですが、8月の気象予報士試験と当神社の例大祭日は同じ日ですので、受験することができません。合格できた第56回試験は東京オリンピック、パラリンピックのため8月最終日曜でなく8月第3日曜日に開催して戴いたことが有難かったです。なぜならば8月最終日曜に開催されていたら、当方は上述の理由により受験はできないからです。
 - ・従って次は第59回試験に受験を考えています。必ず一発合格をつかみます。

18 自分の信念

- ・大学卒業後、就職してから約20年が経ちましたが、20代、30代、40代で自分の信念となる言葉があります。
- ◆「異常なれ」(20代)
- ・他人と同じことをしているようでは、成功できない、いい結果は出せない、ということをして学生時代から肝に銘じてました。
 - ・従って、20代は働きに働きました。合コンも飲み会も全て参加せず、仕事に全力で取り組み、終電すら乗ることもしないくらい深夜2〜3時まで会社にて(無駄なこともあったかもしれませんが)真面目に仕事に取り組みました。今思うと無駄なことは一つもなかったと思います。
 - ・周りからは「紺谷はワーカーホリック」「周りが見えていない」という声が聞こえてきましたが、若い頃(20代前半)に苦労したことで今は何も苦労すること、怖いことはありません。(何が起きても驚きません)
 - ・当方の場合は、とにかく「量をこなす」ことで「良質を生む」というスタンスで今でも取り組んでいます。不器用でも遠回りしてでも地道にこなすことが大切だと思っています。
 - ・逆に「効率的に」勉強することはお薦めしません。この手法で合格を手繰り寄せる方は本当に天才の方だけだと思います。
 - ・最後は「量をこなした」人間が勝つと確信しています。
- ◆「悠々と急げ」(30代)
- ・がむしゃらに働き、走り抜いた20代ですが、それなりの経験やスキルもついてきました。
 - ・そこでさらに自分を高めるために「悠々と急げ」という言葉を信念としました。
 - ・「悠々と急げ」とは気象予報士試験対策にもつながると思います。長期的な大きな目標＝「気象予報士合格」に向けて大局的には大きな計画を作るが、日々の実務は淡々とスピード感をもって日々を過ごすということだと理解しています。
 - ・日々の仕事でも「中長期的な目標、目的」は意識しつつ、日々の小さな目標、タスクは確実に短時間でこなしていく、ということだと思います。
- ◆「人間万事塞翁が馬」
- ・当方も40代に入りました。これまで本当にいろんなことがありました。特に30代はどん底の時代も続きました。
 - ・しかし生きている人間の幸福度は絶対に平等だと思います。要するに「いいことが

あった時は悪い時の予兆」「悪いことがあった時はいいことへ向かう予兆」ということです。

- ・従って、生きていて「いい時も」「わるい時も」感情をできるだけぶらさずに自分ができていることを淡々と地道にこなすことが大切ということです。
- ・気象予報士試験対策に置き換えると、「勉強の調子がよくない」「模擬試験の点数が伸びない」ことはブレイクスルーする予兆と思って、あえてその期間を楽しんで下さい。
- ・逆に「勉強の調子がいい」「模擬試験の点数がよかった」ことは悪いことが起きる予兆ですので、今以上に謙虚に慎重に身構えながら過ごしてください。

19 合格してからの景色の変化

- ・シビアな話になりますが、どんなに頑張っても、時間かけても、努力しても、最後は「結果」だけしか評価されません。
- ・逆に言うと、努力しなくても、楽しても、授業に来なくても、「合格」できる人が評価されます。それくらい結果が全てだと思います。
- ・当方の場合は、気象予報士試験に合格できたことで、いろんな新しい話が舞い込んできています。どれも有難いお話しやご提案です。
- ・これもただ「気象予報士試験合格を目指して勉強しています」というだけなら、誰からもお声はかかりません。
- ・結局は人生を変えたいなら【合格する】しかないのです。
- ・当方の場合は、神社の仕事や他仕事も掛け持ちしているので、いますぐ何か具体的なことは考えていませんが、いろいろやりたいことができる環境が醸成されつつあることは事実だと思います。
- ・皆様も合格した後の山頂からの気持ちいい景色を楽しんでもらえればと思います。

20 勉強会

- ・夢☆カフェ通学実技口座(令和2年秋講座開始)以来、同じ目標を持つ仲間と皆様とご縁を戴きました。
- ・それ以来、参加された方とは今でも2週間に1度の頻度で実技対策勉強会をしています。
- ・この勉強会では3-4名が集まり、実技試験過去問や、夢☆カフェ模擬試験を2題選んで、事前に解答してきて、当日は参加者がそれぞれ問題を読んだり、それぞれが書いてきた解答を発表し合い、それに対する他参加者からのコメント(いいことも悪いことも)を共有して、なぜ正解なのか、なぜ減点なのかを検証します。
- ・自分一人だけでは、どうしても自分に有利、甘い方に解釈をしがちになりますが、一緒に勉強すると、今までは自分では気づかなかった誤答のポイントを周りから教えて戴けます。また逆に他人の間違いを自分の言葉で指摘することで自分の知識や理解が正しいかどうか確認できます。
- ・またインプットではなく、自分の言葉で話す機会が多いので、アウトプットを最大限に高めることができます。ここで話したり聞いたりすることの記憶の歩留まりはかなり高くなります。また自分の言葉で賛成、反論をすることになるので、理解できないとなかなか参加できないという緊張感もあります。
- ・この勉強会は基本的に夢☆カフェの通学実技講座と並行して有志が揃えば、2週間に一度開催します。(当方も原則毎回参加して皆さんと一緒に頑張ります)
- ・ご参加に興味がある方はいつでも当方までご連絡ください。最大限アレンジをします。

21 さいごに

- ・我々は、それぞれ違う日にこの世に生を受け、生活環境も、学業環境も、仕事環境も異なります。ただそんな共通点がない我々が「気象予報士試験合格」という一つの共通の目標に向かってご縁を戴くことができました。
- ・しかし勉強を進めるうえでいろいろ不安なことが次々と襲い掛かることと思います。
- ・ただ昨年からのコロナ禍の中、生活ですら厳しい環境にいらっしゃる方が多い中、気象学、気象予報士試験合格のために「勉強できる」ことは幸せなことだと思います。いろいろと苦しんでいる方々のことを考えれば、勉強しているときに、「行き詰まった」「どう勉強していいかわからない」「合格できるかどうか不安」などという悩みは本当にナンセンスで些細なことです。
- ・勉強できる「幸せ」「喜び」「感謝」の気持ちを抱きつつ、合格するのではなく、逆に向こうから「合格してください」というお誘いがあるまで徳を積むことが最も大切だと思います。
- ・勉強する過程、過去問や模擬試験の解答例では納得できないことも多々あると思います。しかしこれも「気象予報士試験に合格する」ためには無意味です。中島さんのようなプロの講師のいうことは納得できないことがあっても素直に消化することが絶対に大事です。また過去問、模擬試験の解答例も結局はそれが「全て」です。自分の意見、考え方、解答例はあるかもしれませんが、それも無意味です。とにかくこれらの解答例に近づく解答を書くための鍛錬を素直に取り組んで戴ければと思います。
- ・合格できたからこそ、いろんなことを言えると思いますので、ご不快な言葉や表現もあったかと思いますが、ご容赦ください。

皆様には「合格など目指さなくていいです!」、それより、この世に生を授かったことに感謝の気持ちを持ちつつ、徳を積み、掃除もしながら、人生を満喫して戴くことに期待しています。そんな中、合格に辿り着く状況までたどり着いたら、あと一息です! 中島さんは登山の9合目までは導いて戴けます。ここから山頂に到達できるかどうかは、皆様次第です! 自分に関わる全ての方に感謝、謙虚に地道に日々やり遂げるだけです! 今後とも宜しくお願い申し上げます。

以上